

|       |   |
|-------|---|
| 訪問先   | GEELSGAARD 障がい児学校 (デンマーク)                   |
| 日時    | H 2 5 年 1 2 月 1 6 日 (月) 9 : 0 0 ~ 1 1 : 0 0 |
| 訪問者   | 池田、崎元、川原田、大寺、平木、伊藤                          |
| 訪問先対応 | PREBEN HALD / SOREN BECH (CEO)              |

## 1. 訪問目的

デンマークの障がい児スクールは、人的にも手厚いことはもちろんであるが、また、ICTの導入が進んでいるとも聞いている。6歳から18歳の重度の知的・身体の障がいを持った子供たちの学校であるが、17歳から25歳の若者の教育も実施している。学校設備の状況、教員の配置や体制、学校運営に対する保護者の参加、また、25歳までも受け入れていることから卒業後の進路と支援について調査する。

## 2. CEO より概要説明

まず、デンマークの状況について説明。

- ・デンマークは人口550万人。
- ・三権分立が確立されており、汚職や、ある特定の人を優遇するといったことがない。
- ・国は女王が最高の地位に立ち、次が国会。
- ・学校運営は自治体が行う。
- ・国／自治体の間に“Region”と呼ばれる組織があるが、“Region”には税収はない。国の資金が用いられる。
- ・デンマークはEUであるが、(加入にあたっての) 但し書きとして自決権を持っており、また、NATOの一員でもある。
- ・元々、北欧としての連合が存在したが、EUができてからはその色合いが薄れた。
- ・デンマークの福祉は、キリスト教をベースに、社会主義的な考え方。互いの面倒を見ようというもの。
- ・自分で自分のことをするという可能性と権利が存在する。
- ・キリスト教の“隣人愛”に基づいている。
- ・今のデンマークとしては、1870年来となる。革命なしに移行した。

福祉国家には、次の3パターンがある。

### ①アメリカ、イギリス式・・・

保険にお金を払う。福祉に使われる。利用者負担がある。面倒をみてもらうのは、よほど困った時に限られる。

### ②コンチネンタル式 (フランスなど)・・・

雇用から外れるような人にかんりの面倒を見る。

家族の中や教会の内部で援助が行われる。

公共資金の入りがデンマークと大きく異なる。

例 子どもの保育にドイツ 10% デンマーク 75%

### ③デンマークの方式・・・

公共が大きい。税金を払って全員に。

保育～学校～大学～医療～年金までを公共が見る。

成人して学校に行くことが国責任となっている。

民主社会が徹底している。自分たちの参加意識が高い。

北欧の人たちは喜んで税金を払う。

貧困が予防されていく。Safety-net が充実している。

階級別のものが出てこない。

人は平等で、それぞれの人格が尊重されている。職業、学校、社会を通していえる。

貧富の差が小さく、互いに関係しあう社会。

幸福度の世界の top 5 に北欧の国が入っている。デンマークは top。

4～5年に見られたストライキは先生や看護師など。

労働はフレキシブルで解雇が簡単である。解雇の予告通知は2～3週間。

長くて2～3か月、これは職人の場合。事務職では2～3か月。

失業保険をかけている人もいるし、国の支援を受ける人もいる。

労働契約の中に、10～17%は企業で貯金をするようになっている。

### <Q&A>

Q：ここまでの民主国家になっていったのはいつごろか？

A：1920～1930年代。

Q：政党はいくつある？

A：いくつが存在する。どの政党もキリスト教がベースなので、キリスト教〇〇とはついていない。キリスト教の中でいろいろな方向性がある。

Q：2000年、2008年に企業から解雇されると国の責任で職業学校に行く制度があるが？

A：今も、その制度は健在である。18歳～25歳の職場では、4人に1人が何か月か待つかつという場合もある。グローバルゼーションによって、125000～150000人の職場が消失している。

- ・学校教育は、75%が公立。Folkeskole
- ・特殊学校は、Region が運営している。
- ・本当の中に98の自治体があり、島には28の自治体がある。
- ・Region は、子どもの入学の権利を自治体に対して“売る”という概念。
- ・選ばれるように水準や専門性を維持するための努力をする。

- ・例えば、子どもの持つ課題を克服できるようにイギリスやハンガリーに研修に留学させる。
- ・子どもは、学ぶ権利を持っている。コミュニケーションや体に関して。
- ・子どもたちが喜んできていることが大事である。
- ・生徒が103名。教師は210名で、ほとんどがフルタイム勤務。
- ・学校の運営は理事会が行い、保護者と従業員（先生など）で構成される。校長・副校長は投票権がない。

### 3. 見学



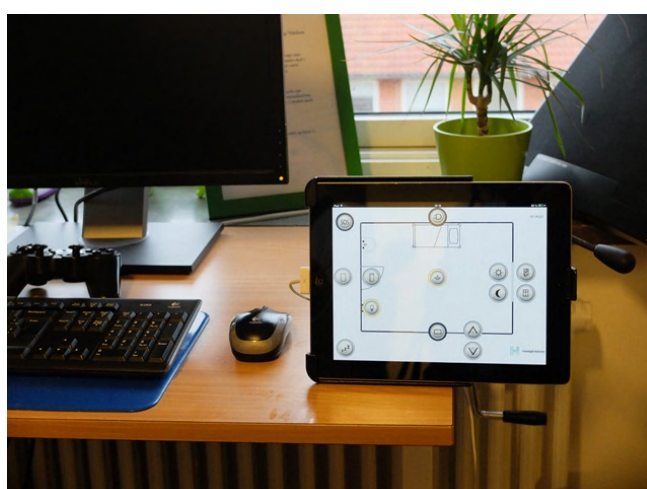
その1 視力障害と聴力障害を持つヤコブ君の授業



点字を習得するための器具を使用して個別指導が行われる。ヤコブ君の部屋が用意されている。



その2 校内にある寄宿舎を見学。7名が寄宿している。



部屋の中には、ドアの開閉など、肢体不自由の子どもが簡単に操作できるパネルがある。



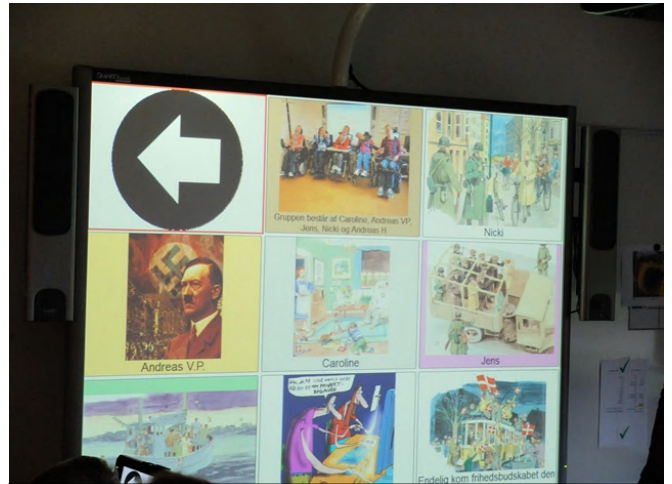
その3 言語・コミュニケーションに障がいのある生徒の授業



ゲーム形式で楽しく授業が行われていた。みんな、表情がいい。



その4 主に肢体不自由の生徒の授業風景



ネットを駆使した授業が行われていた。それぞれの障がいをカバーするための入出力機器が用いられている。

4.

